

令和4年度
決算特別委員会【福祉局】質疑 令和5年9月28日

「KOBEシニア元気ポイント」※5の 更なる発展について

住本 質疑 高齢者の外出機会の増加や社会参加の促進という点では、KOBEシニア元気ポイントはフレイル予防につながる取り組みだと思うのだが、令和5年8月末の登録者は2046人であり、目標数の半分程度である。実際の活動者数を増やすための事業認知・活動場所の種類等の選択肢を増やることが重要であると考えが今後の取り組みについては。

▽
若杉 副局長

コロナ禍の最中(令和2年10月)のスタートで、施設活動ができない中でイベント(神戸マラソンやコロナワクチン接種会場での誘導整理)等も活動対象にしていき拡大してきた状況である。現在は、庁内連携ということで、環境局、文化スポーツ局、区役所等と連携を進めている。また、民間とも連携しており、神戸電鉄と神鉄ハイキングの参加者受付、コース内の案内誘導もしてもらっている。今後は、公園内清掃活動ボランティア団体と連携していくことができないか建設局とも検討を始めている。活動の場所、選択肢を増やして事業の魅力アップの取組を進めている。今後も登録者数を増やす努力をしていきたい。

住本 要望

高齢者も得意や不得意、やりたいことやたくないこと、やってみたいこと、これだったらできるなど、いろいろあると考える。これまでの仕事の経験を生かすことができるなど、高齢者の選択肢の幅を広げることで社会参画の機会を作っていくことが重要だと思っているので、引き続き他局連携の取組をお願いしたい。



地域の方々と共に名谷公園清掃▲

※5 KOBEシニア元気ポイントとは、神戸市内にお住まいの65歳以上の方が、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの介護保険施設・事業所や認定こども園・保育所(私立に限る)・児童館などの子ども施設で対象となる活動を行った場合に、ポイントを貯めることができ、貯まったポイントは現金と交換できる制度。

1 狭あい道路解消の取組みについて

住本 質問 安全・安心なまちづくりを進める上で、狭あい道路(道幅4メートル未満の道路)の解消は非常に重要である。他都市では、道路幅を確保するためのセットバック支援として、測量や登記等に対する補助を行っているが、本市の取組みは他都市に比較して非常に遅れている。道幅が狭いため、緊急車両や介護車両が入れず困っているという切実な声も聞いているが、防災の観点からも対策は急務であるが、遅れている道路行政についてどう取り組むのか。

▽
今西 副市長

狭あい道路は車両の円滑な相互通行に支障があるだけでなく、住宅密集地域では緊急車両の通行、災害時の避難路、日照や通風等の確保など、様々な課題がある。ただ、既に沿道に住宅が建ち並んでいる地域では、直ちに道路の拡幅を行うことは現実的に困難なことから、建て替え時を捉えて道路拡幅工事を支援している状況である。

具体的には、沿道建物の建て替えに際し、セットバックした公道の後退敷地について、個人から寄付を受け付け、本市が所有権移転登記や舗装整備をすることにより、公道として一体的な管理を行っている。それ以外にも密集市街地重点地域を定めて、狭あい道路の改善に努めてきた。今後も、道路、住宅、まちづくりの行政の関わる関連部局が連携をしながら狭あい道路解消に努めたい。

住本 要望

神戸市以外の阪神間の他都市には、狭あい道路解消のため、寄付以外にも、セットバック部分の測量費補助、後退敷地の買取、後退部分の塀、壁等の撤去費用補助、また所有権移転せずに使用貸借等で管理は行政が行うなど様々な解消補助メニューが用意されている。また、セットバック後に塀などを設置する違法建築の指導も本市は甘く、過去3年間で報告を受けただけでも72件もある(実際はもっとあると推測される)。空き地、空き家問題も狭あい道路が関係している所もあり、住み良いまちづくりには、狭あい道路解消は喫緊の課題である。補助メニュー拡大、指導強化を求めたい。



一般質問(令和5年10月24日)▲

2 探究学習の指導のあり方について

住本 質問 学習指導要領が新しくなり、小・中・高校での探究学習が取り入れられている。しかし、学校や地域、教員によってその取り組み状況のばらつきがあると聞いている。変化の激しい社会の対応に探究的な見方・考え方を働かせ、より良く課題解決をしていく力を養成するためにも探究学習は今後重要な時間であると考えが、本市においてどのように位置づけ実行していくのか。

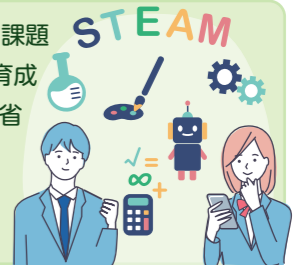
▽
長田 教育長

本市においては主に総合的な学習時間において、この探究的な学びに取り組んでいる。各教科の学習とは違い、地域や学校ごとの実態に合わせたテーマで学習している。例えば、福祉や防災、環境といった生活に即した身近なテーマを設定して、児童・生徒が自ら課題を見つけ解決に向けて取り組んでいる。これから社会を生き抜く力を育てる大切な学習であると考えて、すべての学校において、社会変化に即して子どもたちが主体的に学ぶことができるように引き続き取り組んでいきたい。

住本 要望

課題は教員の準備など負担が大きく、教員自身が探究学習を受けていない世代なので、どう指導していいかわからないなどがある。各学校での取組事例をモデルプランとして提示するなど、教員の負担軽減も図り充実を図って欲しい。また、兵庫県では探究学習の更なる発展版でもある独自の教育システム「兵庫県立STEAM教育 ※6」を構築し県立高校で展開するとのことである。神戸市教委もそれらに対応できるように、しっかりと対応願いたい。

※6: STEAM教育とは、データサイエンスに基づく課題分析や、AI・IoT等の新たな価値を創造する人材の育成に向けた教科横断的な学習のことであり、文部科学省より推進されている。Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(ものづくり)、Mathematics(数学)の頭文字をとったもの。



市民の皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしております

市政相談
受付中!

公式サイト <http://www.k-sumi.jp>

Mail suma@k-sumi.jp

住本かずのり
Facebook

住本かずのり



発行

日本維新の会 神戸市議員団
〒650-8570
神戸市中央区加納町6丁目
5番1号1号館29階
TEL: 078-322-0185
FAX: 078-322-0184

神戸市須磨区支部
〒654-0051
神戸市須磨区月見山本町
2丁目6番15号
TEL: 078-735-8231
FAX: 078-735-8231